

平成25年度版

SHI-EMS

静岡市環境マネジメントシステム

環境報告書

～静岡市役所における環境への取組～



静岡市立日本平動物園「ロッキー」と「バニラ」



静岡市

目次

1	静岡市の環境マネジメントシステム	1
2	静岡市環境方針	1
3	SHI-EMS の適用範囲	2
	(1) 適用範囲	2
	(2) 適用範囲のグループ	2
4	平成 24 年度の取組	3
	(1) 環境目標の達成状況	3
	(2) グリーン購入の推進	4
	(3) 省資源・省エネルギーの取組実績	5
	(4) 公共工事における環境配慮	5
	(5) 職員に対する環境教育・啓発	6
	(6) 内部環境監査の実施	6
	(7) 外部環境監査の実施	6
5	平成 25 年度の環境目的・目標	7
6	静岡市地球温暖化対策実行計画の進捗状況	8

1 静岡市の環境マネジメントシステム


本市では、静岡市環境基本計画の基本方針である「人々が健やかで豊かに暮らせる、人と環境が共生するまち・静岡」を目指す都市像として掲げ、これまで ISO14001 の認証取得による積極的な環境管理活動を行ってきました。

ここで得た知識や経験を基に、省エネ・省資源から地球温暖化に至る様々な環境問題に迅速かつ柔軟に対応し、さらなる実効性の向上を図るため、平成 24 年度から静岡市独自の環境マネジメントシステム (SHI-EMS) の運用を開始しました。

2 静岡市環境方針

環境方針は、本市の環境マネジメントシステムを実施し、改善していくための原動力となるものであり、各課及び施設が設定する目的・目標の枠組みを与えるものです。

静岡市が実施する環境配慮の意図及び原則は、環境方針の中で宣言されています。



静岡市環境方針

— 一人と環境が共生するまち・静岡 —

1 基本理念

本市は、2,000mを超える山々が連なる南アルプスから、日本一深い水深 1,500mの駿河湾まで高低差 5,500mの間に存在する山、川、海の豊かな自然と、そこに生息する多様な生物に育まれ、高度の都市機能が華耀した東都の政令指定都市として発展してきました。

この豊かな自然環境を保全し、次の世代に引き継ぐとともに、地球規模で起きている気候変動や生物多様性など、今後、ますます多様化する環境問題を市民、事業者と行政の協働により解決していく必要があります。

そこで、静岡市環境基本計画の基本方針である「人々が健やかで豊かに暮らせる、人と環境が共生するまち・静岡」を、あらゆる人々が環境に配慮し、環境保全に取り組み、快適な環境の創造に努め、実現していきます。

2 基本方針

事業者が環境に与える影響を十分認識したうえで、次の取組について環境目的及び目標を設定し、これを達成するため、定期的な見直しと継続的な改善を行ってまいります。

- (1) 環境と調和したまちづくりを推進します。
環境に配慮した施策を実施するとともに、市民や事業者と協働し、環境と調和したまちづくりを推進します。
- (2) 資源循環型の社会を構築します。
省エネルギーと省資源、ごみの減量とリサイクル、公共工事における環境配慮、グリーン購入などを推進し、環境への負荷が軽減できる、資源循環型の社会を構築します。
- (3) 施設からの環境汚染の予防に努めます。
市の施設の日常業務において、自主管理基準を設定するなど、適正な管理を行い、環境汚染の予防に努めます。
- (4) 環境に関連する法令等を遵守します。
環境に関連する法令及びその他の環境に関する通知、協定等を遵守します。
- (5) 職員の環境意識を高めます。
教育研修を実施することにより、職員の環境意識を高めます。

この方針は、全職員及び事務事業に関連する委託業者に周知し、一般にも公開します。

平成 24 年 4 月 1 日
静岡市長 田辺信宏

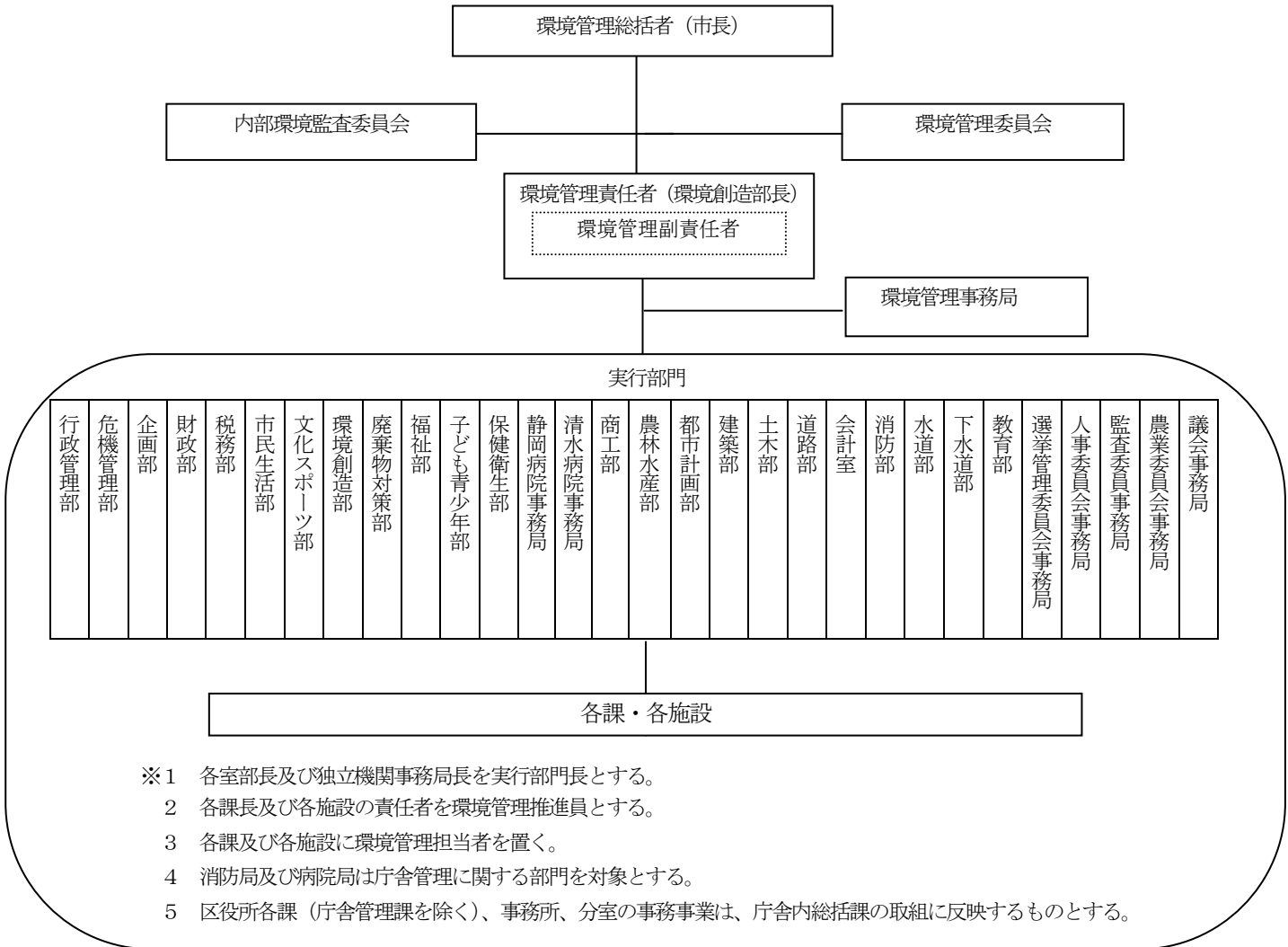
静岡市環境方針

3 SHI-EMS の適用範囲

(1) 適用範囲

本システムは、本庁舎として機能している静岡庁舎、清水庁舎及び駿河区役所のほか、環境負荷の大きな施設として各清掃工場、衛生センター、最終処分場及び浄化センターが定められています。環境管理組織の関連については、次のとおりです。

(環境管理組織図)



※環境管理組織図は平成 24 年度現在

(2) 適用範囲のグループ

環境への配慮を効率的かつ効果的に実施するため、事務事業が環境へ与える負荷の程度に応じて対象課及び施設を次のグループに分類しています。

- ◆A グループ：B、C グループ以外
- ◆B グループ：手順書（浄化槽管理手順書、危険物等管理手順書、産業廃棄物管理手順書、感染性廃棄物管理手順書、ポリ塩化ビフェニル類管理手順書、放射性同位元素等管理手順書、公共工事環境配慮指針及び静岡市溶融スラグ利用指針）の適用を受ける課、施設及び静岡病院事務局病院施設課、清水病院事務局病院施設課、消防部消防総務課
- ◆C グループ：各庁舎管理課、清掃工場、衛生センター、最終処分場、及び浄化センター

4 平成 24 年度の取組

環境マネジメントシステムの適切性、妥当性、有効性について、事務事業の推進及び法規制の順守を確認した結果、システムの要求事項に対する問題はなく、全体として良好な取組を確認できました。

各目標に対する未達成項目並びに内部環境監査及び外部環境監査における「不適合」及び「改善提案」については、適切な処置を行い、改善に努めています。

なお、平成 24 年度の環境目標に対する達成状況は次のとおりです。

(1) 環境目標の達成状況

平成 24 年度は、省エネ・節電を中心とした 19 の共通目標の中から、各課・施設が取組可能な目標を選択し、全庁一体となった取組を行いました。各担当者は、取組状況を「共通目標チェックシート」に毎月入力・確認することにより、確実な実施に努めました。

また、特定の手順書（産業廃棄物管理手順書等）に該当する B・C グループについては同チェックシートを利用し、法的要求事項等の順守を行いました。

なお、環境負荷の大きい C グループは、年度当初に実施した環境影響評価に基づき、環境目的別の数値目標や具体的な行動内容を決め、達成に向けた取組を実施しました。

その結果、環境目標に対する達成率は、共通目標チェックシート 99%、該当する手順書に関する目標 99%、C グループ独自の目標 98% となり、職員の環境配慮への取組が適切に行われていることが確認できました。

ア ABC全グループ共通 116 課及び施設（A：57 課 B：43 課 C：16 課）

		環 境 目 標	取組数	達成数	達成率
空 調	1	夏期は 28℃、冬期は 18℃に設定します	79	79	100%
	2	ブラインドを活用します	92	92	100%
照 明	3	部分消灯、照明機器の間引きを行います	113	113	100%
	4	会議室、打合せコーナー及びトイレなど不使用時には消灯します	110	110	100%
	5	昼休み、就業時間前、17:30 以降は消灯します	113	111	98%
パソコン	6	退庁時、長時間の離席時には、主電源を切ります	115	115	100%
コピー機・ プリンタ	7	使用していない時は節電モードに切り替えます	115	115	100%
	8	両面やまとめて一枚(Nアップ)機能を活用します	114	114	100%
電気製品等	9	電気ポットの使用は控えます	92	91	99%
	10	テレビは不使用時、主電源を切ります	101	101	100%
	11	電源タップを活用し、こまめに電源を切ります	113	112	99%
共用部分等	12	エレベーターは上下3階の移動時には使用しません	101	101	100%
水 道	13	こまめに蛇口を閉めます	114	114	100%
公 用 車	14	エコドライブの徹底により、燃料使用量を削減します	113	113	100%
	15	近距離(概ね 2.0~2.5 km未満)は、公用自転車を利用します	91	91	100%
用 紙	16	不用紙等のリサイクルボックスを設置し、分別回収、資源化を徹底します	115	115	100%
ご み	17	ごみ持込み量を削減し、リサイクルの徹底を図ります	115	114	99%
グリーン購入	18	「静岡市グリーン購入指針」に適合する製品を購入します	115	115	100%
教 育	19	職員に対する環境教育を年1回実施します。【7~8月】 実施後、「教育訓練実施記録(様式第 11 号)」に記録します	115	115	100%
				共通目標達成率	99%

イ 該当する手順書に関する目標（8項目） B・Cグループ 59課（B：43課、C：16課）

	環 境 目 標	取組数	達成数	達成率
1	「浄化槽管理手順書」に従い、適正に管理します	20	20	100%
2	「危険物等管理手順書」に従い、適正に管理します	23	23	100%
3	「産業廃棄物管理手順書」に従い、適正に管理します	23	22	96%
4	「感染性廃棄物管理手順書」に従い、適正に管理します	6	6	100%
5	「PCB類管理手順書」に従い、適正に管理します	27	27	100%
6	「放射性同位元素等管理手順書」に従い、適正に管理します	2	2	100%
7	「公共工事環境配慮指針」に従い実施します	28	28	100%
8	「静岡市溶融スラグ利用指針」に従い実施します	22	22	100%
該当する手順書に関する目標達成率				99%

ウ 環境目的別の環境目標設定数 Cグループ 16課

	環境目的	目標数	達成数	達成率
1	きれいな大気環境を目指す	-	-	-
2	清らかな水環境を保全する	10	10	100%
3	豊かな自然を保護する	-	-	-
4	良好な都市景観と快適な生活空間を創造する	-	-	-
5	環境意識を高める	1	1	100%
6	省エネルギー・温室効果ガスの排出抑制を推進する	61	56	92%
7	省資源・ごみ減量とリサイクルを推進する	15	14	93%
8	公共工事において環境に配慮する	-	-	-
9	グリーン購入を推進する	2	2	100%
10	市の施設からの大気汚染を防ぐ	2	2	100%
11	市の施設からの水質汚濁を防ぐ	11	11	100%
12	市の施設周辺の生活環境に配慮する	8	8	100%
13	市の施設における有害物質の管理を徹底する	14	14	100%
環境目的別の目標達成率				98%

※Cグループはこれら環境目的別に、各課・施設で独自の環境目標を定めています。

(2) グリーン購入の推進

「静岡市グリーン購入指針」に基づき、継続的にグリーン購入対象品目の購入に取り組みました。

(3) 省資源・省エネルギーの取組実績

平成24年度の三庁舎（静岡・清水・駿河）における光熱水使用量は、前年度と比較し、電気・ガス・ガソリン使用量及び廃棄物排出量を削減することができました。

なお、ガスが大幅に削減された大きな要因としては、空調設備をガスと電気を併用している清水庁舎が、ガスの値上げに伴い電気を主な使用として切り替えたためです。

しかし、水道使用量については増加しているため、節水の徹底や流水量の調節による節減の積極的な取組を呼びかけていきます。

	23年度	24年度	23年度比
電気	7,980 MWh	7,799 MWh	▲2.3%
ガス	315,216 m ³	267,769 m ³	▲15.1%
水道	75,616 m ³	77,358 m ³	2.3%
ガソリン	201,382 ℓ	195,909 ℓ	▲2.7%
廃棄物	86,490 ℓ	82,250 ℓ	▲4.9%

(4) 公共工事における環境配慮

公共工事から生じる環境負荷を低減し、資源循環型社会構築のため、建設材料への再生材使用や建設廃棄物のリサイクルを推進しました。また、公共工事に使用する建設機械として、排出ガス対策型建設機械、低騒音型・低振動型建設機械の使用を義務付けています。

ア 公共工事リサイクル材使用状況

使用した建設資材	平成23年度			平成24年度		
	建設資材の総使用量	リサイクル材使用量	リサイクル材使用率	建設資材の総使用量	リサイクル材使用量	リサイクル材使用率
コンクリート類、アスファルト類等	304,284 t	172,780t	56.8%	262,680 t	146,926t	55.9%
土砂・砕石	328,349m ³	265,882m ³	81.0%	368,100m ³	296,600m ³	80.6%

イ 建設発生土のリサイクル状況

	建設発生土発生量	リサイクル量	リサイクル率
平成23年度	306,906m ³	254,117m ³	82.8%
平成24年度	398,600m ³	311,200m ³	78.1%

ウ 建設廃棄物のリサイクル状況

コンクリート塊、建設発生木材、アスファルト・コンクリート塊の発生量、リサイクル量

	廃棄物発生量	リサイクル量	リサイクル率
平成23年度	223,997 t	207,936 t	92.8%
平成24年度	182,355 t	165,600 t	90.8%

(5) 職員に対する環境教育・啓発

静岡市環境マネジメントシステムの全対象課及び施設から選任された環境管理担当者に対し、環境マネジメントシステムについて学ぶ環境研修を実施しました。

環境管理担当者は、この研修において習得した知識を所属課の職員へ周知し、毎月の取組状況を庁内 LAN を利用したシステムへ入力することにより、進行管理を行いました。



環境管理担当者研修



市政総合ネットワーク
環境マネジメントシステム

(6) 内部環境監査の実施

内部環境監査は、各局から推薦された職員 16 名が専門研修を受け、抽出した 32 課・施設において実施されました。

その結果、「軽微な不適合」1件と「改善提案」3件の指摘がありました。そこで、指摘のあった課及び施設は、再発防止策の作成及び改善に努めました。なお、システムの運用に関して大きな問題となる事項ありませんでした。



内部環境監査員研修



内部監査委員会

(7) 外部環境監査の実施

外部環境監査は、ISO14001 及びエコアクション 21 の審査人により、C グループの施設を中心として行われました。

その結果、「改善提案」9件が報告されましたが、環境マネジメントシステムマニュアルの要求事項に対する「不適合」はなく、環境マネジメントシステムが適切に運用されているとの判定を受けました。

なお、審査人による「改善提案」については、手順書等を見直すとともに、事故を未然に防止するための一歩先を見据えた対応に努めました。



外部環境監査

5 平成25年度の環境目的・目標

平成25年度においても、平成24年度と同等の節電・省エネ対策が重要となっていることから、共通目標の取組項目は継続することとし、その中から各課・施設が実施可能な目標を選択しています（原則すべての項目を選択）。また、各手順書に従い業務を行う必要があるB・Cグループの課・施設については該当する目標を選択しています。

なお、Cグループについては、年度当初に実施した環境影響評価に基づき、各課・施設で独自の環境目的別に目標を定めています。

ア 共通目標（19項目）・・・ABC全グループ共通 116課及び施設（A：56課、B：43課、C：17課）

		環 境 目 標	取組数
空 調	1	夏期は28℃、冬期は18℃に設定します	72
	2	ブラインドを活用します	95
照 明	3	部分消灯、照明機器の間引きを行います	115
	4	会議室、打合せコーナー及びトイレなど不使用時には消灯します	114
	5	昼休み、就業時間前、17:30以降は消灯します	114
パソコン	6	退庁時、長時間の離席時には、主電源を切ります	116
コピー機・ プリンタ	7	使用していない時は節電モードに切り替えます	116
	8	両面やまとめて一枚(Nアップ)機能を活用します	116
電気製品等	9	電気ポットの使用は控えます	87
	10	テレビは不使用時、主電源を切ります	110
	11	電源タップを活用し、こまめに電源を切ります	115
共用部分等	12	エレベーターは上下3階の移動時には使用しません	102
水 道	13	こまめに蛇口を閉めます	115
公 用 車	14	エコドライブの徹底により、燃料使用量を削減します	116
	15	近距離(概ね2.0～2.5km未満)は、公用自転車を利用します	90
用 紙	16	不用紙等のリサイクルボックスを設置し、分別回収、資源化を徹底します	116
ご み	17	ごみ持込み量を削減し、リサイクルの徹底を図ります	115
グリーン購入	18	「静岡市グリーン購入指針」に適合する製品を購入します	116
教 育	19	職員に対する環境教育を年2回実施します。【4～5月と7～8月】実施後、「教育訓練実施記録(様式第11号)」に記録します。	116

イ 該当する手順書に関する目標（8項目） 60課（B：43課、C：17課）

	環 境 目 標	取組数
1	「浄化槽管理手順書」に従い、適正に管理します	19
2	「危険物等管理手順書」に従い、適正に管理します	25
3	「産業廃棄物管理手順書」に従い、適正に管理します	28
4	「感染性廃棄物管理手順書」に従い、適正に管理します	5
5	「PCB類管理手順書」に従い、適正に管理します	30
6	「放射性同位元素等管理手順書」に従い、適正に管理します	2
7	「公共工事環境配慮指針」に従い実施します	26
8	「静岡市溶融スラグ利用指針」に従い実施します	24

ウ 環境目的別の環境目標設定数 Cグループのみ 17 課

	環境目的	目標数
1	きれいな大気環境を目指す	—
2	清らかな水環境を保全する	14
3	豊かな自然を保護する	—
4	良好な都市景観と快適な生活空間を創造する	—
5	環境意識を高める	1
6	省エネルギー・温室効果ガスの排出抑制を推進する	54
7	省資源・ごみ減量とリサイクルを推進する	5
8	公共工事において環境に配慮する	—
9	グリーン購入を推進する	—
10	市の施設からの大気汚染を防ぐ	2
11	市の施設からの水質汚濁を防ぐ	9
12	市の施設周辺の生活環境に配慮する	7
13	市の施設における有害物質の管理を徹底する	12

※Cグループはこれら環境目的別に、各課・施設で独自の環境目標を定めています。

6 静岡市地球温暖化対策実行計画の進捗状況

本市では、市が行う全ての事務事業及び市が所有する全ての施設を対象に、温室効果ガス排出抑制のため、平成 23 年 3 月に「静岡市地球温暖化対策実行計画」を策定しました。

本計画の期間は、平成 23 年度から平成 27 年度までの 5 年間とし、目標年度である平成 27 年度までに、基準年度である平成 21 年度から 5 %の温室効果ガスの削減を目指すこととしています。

平成 24 年度の温室効果ガス排出量については、下表のとおりです。

施設別の削減状況

施設分類	排出要因	総排出量 (t-CO ₂)		基準年度比 (%)	
		平成 21 年度 <基準年度>	平成 24 年度		
事務系施設 (庁舎・学校・図書館など)	エネルギー（電気・燃料等）の使用	45,205 t-CO ₂	42,525 t-CO ₂	▲5.9%	
事業系施設	廃棄物 処理施設	エネルギー（電気・燃料等）の使用 一般廃棄物の焼却 し尿処理 等	136,601 t-CO ₂	135,685 t-CO ₂	▲0.7%
	下水道施設	エネルギー（電気・燃料等）の使用 下水処理 下水汚泥の焼却	40,575 t-CO ₂	39,840 t-CO ₂	▲1.8%
	その他施設 (病院・消防・水道施設)	エネルギー（電気・燃料等）の使用	31,950 t-CO ₂	31,506 t-CO ₂	▲1.4%
公用車	燃料の使用 排気ガスの排出 等	2,156 t-CO ₂	2,172 t-CO ₂	+0.7%	
計		256,487 t-CO ₂	251,728 t-CO ₂	▲1.9%	



平成 25 年度版

SHI-EMS

静岡市環境マネジメントシステム 環境報告書

～静岡市役所における環境への取組～

発行/静岡市役所 環境総務課

〒420-8602

静岡市葵区追手町 5 番 1 号

TEL:054-221-1077